

編輯室の内外

夏日既に去つて燈火親しむべき秋となつたが對支關係は愈々重大化し複雑となり準戰時體形は戰時體形にまで押し進められた。實戰兵力の増加は召集に次ぐに召集を以てし、應召者を歡送せんが爲めの萬歳の聲は隣の警視廳に絶ゆる日がない、又突擊空爆、肉彈迫撃、空機體當りの戰報號外の鈴音は窓外にかまびすしく、戰時色に塗りかへられた世相の下に九月號の編輯に從事し、事を終つてもホット一息する氣もせず、内を以て機械力を征服せんばやまずとの奇蹟的將兵の上を偲ばねばならぬ。中華民國の狡猾的な無軌道的な非人道的な醜い暴虐は終に本格的戰争にまで導きいたので我帝國も已むなく戰時體制を以て善處しなければならぬ。夫れで第七十一議會の協賛を得た北支事件特別稅法は八月十一日法律第六六號を以て發布されたが更らに事件の進展は不擴大的方針を尻目にかけ上海事件から漸く全面的交戦へと轉ずることとなつた。戰費は勿論將兵遣族救護費の爲めには財政上の重荷は更らにも云はず産業も統制しなければならぬ貿易も管理を嚴密にしなければならぬ、即ち資金統制生産統制、消費統制と云ふ經濟統制も樹立しなければならなくなつた、恐らく次の臨時議會に提案せらることであらう。だが

事は異議なく取り運ばることは疑ふの餘地がない。平時に在つては自由の立場から摩擦も抗争もあるであろうが一旦緩急あれば義勇公に奉ずる爲めに思想上の争ひも政治上の争ひも軍部對非軍部の抗争があるかの如く感ぜらるゝことも全く其の姿を解消して唯舉國一致あるのみとなる。議會の議事に、デヤーナリストの筆先に、銃後々援狀態に何處にも同心協力の淚ぐましきものが見らるる、軍民背離の憂も政治上の政治的軋轢の恐怖も思想的摩擦の深憂も昨日の一夢に過ぎなくなつた。蓋し舉國一致同心協力は我帝國民の特質である、皇紀二千六百年間の赤子の魂は茲に在る耳。折も折日支間將に火を吐かんとして風雲急を告ぐるの秋、第七回世界教育會議は東京帝國大學で開催された。外國からの會員約一千人、會議の内容如何は言はずものがな、對支問題の危急に赴きつゝある我帝國の態度、我國民の慾容驪がざる状況、舉國一致の熱誠を親しく看取したのである。議長ボール・モンロー博士は曰く「今回之會議で有形無形の幾多の得難き成果を收め國際親善、世界融和に一步を進め得た」と之れあるかなである。

今回シヤム國に近代港を新築することとなつたので、其の設計をイギリス、オランダ、ベルギーに依頼し尙我國に對しても三井物産會社に依頼があつたので、港灣協會に

では内務省土木局、鐵道省等の關係方面の意見を求めて其の設計を考案することとなつた。海國日本が世界一流港灣國と爭霸することとなつたのは何よりも喜ぶべき現象である。快なる哉。

速達郵便の擴張、遞信省では時代の要求に適應せんが爲速達郵便規則を改正し(八月十二日遞信省令第五十五號)内地相互間に發著する郵便物(無封の書狀及第三種乃至第五種郵便物並小包郵便物を含む)は速達に付することを爲すこととなつた。其施行は和和十二年八月十六日からである。内臓の速さにより厄介なるのは無心臓の人であると山尾博士は言はれるが夫れで恨骨髓に徹せしめない工夫が肝要だ。(逃)

定價一部 五十 錢
一ヶ年分 金 六 圓

東京市麹町區外櫻田町一番地内務省内
發行所 (社團)道路改良會

編輯者 東京市小石川區諏訪町五六
印 刷 所 電話銀座(57)四二七
奈 良 直 島 效

東京市世田ヶ谷區代田臺丁目七八〇番
發行兼 印 刷 所